

短命県返上へ共創研究所

弘大、明治安田 健診データ解析

弘前大学と明治安田生命保険（本社東京）、子会社の明治安田総合研究所（同）は5日、「明治安田×弘前大学QOL共創研究所」の開所式を弘前市の弘大で行った。2018年に開設した共同研究講座「未病科学研究講座」を共創研究所に格上げし、短命県返上に向け健康研究に弾みをつける。

（工藤貴光）

共創研究所は民間企業が資金提供し、大学内に設置する研究組織。弘大への設置は初めてで、4月に開設した。弘大によると、東北大に設置例があるが、地方大学は全国でも珍しい。

研究目的は、健康上の問題がなく暮らすことができる期間を示す「健康寿命」を延ばすこと。明治安田は、弘大が20年以上行つた岩木健診を基に開発した「QOL健診（啓発型健診）」を昨年からは全国で行っており、研究所では健診で得られたビッグデータを人工知能（AI）で解析する。所長に就任した明治安田の加藤

大策フェローは「脂っこい食事や喫煙など、健康に悪影響を与えるのか研究したい」と語った。

予算額は従来の研究講座の3〜4倍という。

加藤フェローは「結果を広く市民に還元したい」、弘大の福田眞作学長は「（健診の）海外展開を目指し協力したい」、村下公一副学長は「学内に企業研究者らが常駐することになるので、学生も交

共創研究所のプレートを掲げる福田学長（左から2人目）、加藤フェロー（同3人目）ら5日午後、弘前大



共創研究所のプレートを掲げる福田学長（左から2人目）、加藤フェロー（同3人目）ら5日午後、弘前大

流などで学びが得られる」と語った。

設置期間は3年間。学内「ビーイング総合研究所」のある「グローバルウェル建物」に入所する。